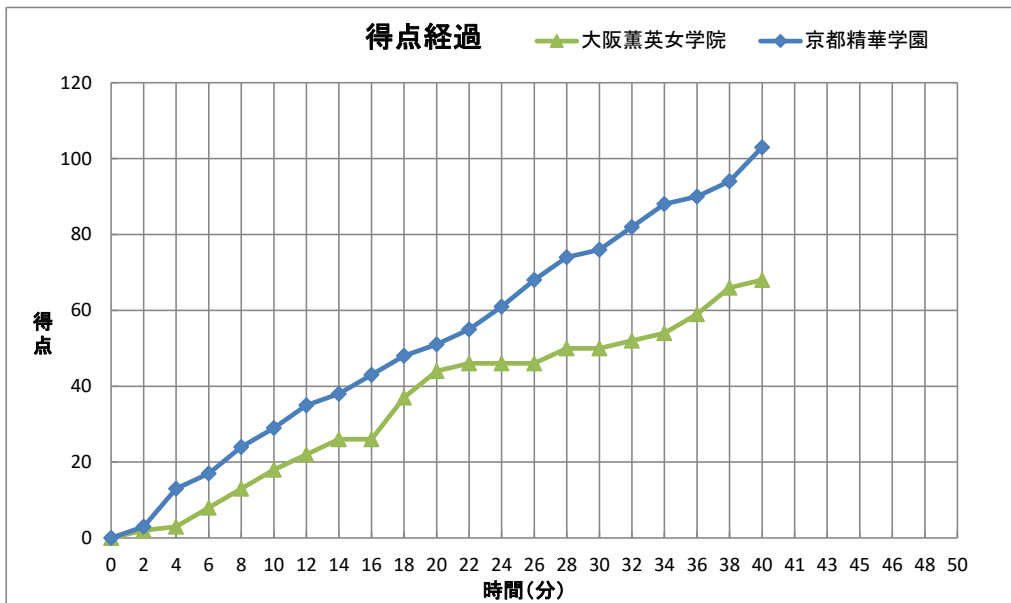




令和4年度
第33回近畿高等学校バスケットボール新人大会

個人トータル表

女子		2月19日		13:05 開始														
決勝		滋賀ダイハツアリーナ		A														
大阪薫英女学院 68		<table border="1"> <tr><td>18</td><td>1st</td><td>29</td></tr> <tr><td>26</td><td>2nd</td><td>22</td></tr> <tr><td>6</td><td>3rd</td><td>25</td></tr> <tr><td>18</td><td>4th</td><td>27</td></tr> </table>		18	1st	29	26	2nd	22	6	3rd	25	18	4th	27	103		◎ 京都精華学園
18	1st	29																
26	2nd	22																
6	3rd	25																
18	4th	27																
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則					
* 4	木本 桜子	14	0	5	4	3	* 4	堀内 桜花	10	0	5	0	1					
* 5	島袋 栞	15	1	5	2	2	* 5	八木 悠香	12	0	4	4	0					
* 6	木本 桃子	9	0	4	1	5	6	川地 汐夏	0	0	0	0	0					
* 7	村松 由梨	6	0	3	0	2	7	山西 凜愛	0	0	0	0	0					
* 8	松本 汐音	0	0	0	0	1	8	塚口 珠妃	0	0	0	0	0					
9	松本 莉緒奈	3	1	0	0	2	9	大田 紅葉	5	0	1	3	1					
10	川上 愛結	2	0	1	0	1	10	高井 星	0	0	0	0	0					
11	下崎 好	15	1	5	2	3	11	雁瀬 梓	-	-	-	-	-					
12	吉田 華子	2	0	1	0	2	12	土屋 あかり	-	-	-	-	-					
13	高橋 心愛	-	-	-	-	-	13	松居 かなで	0	0	0	0	0					
14	福原 怜愛	0	0	0	0	0	14	林 咲良	9	2	0	3	1					
15	荒木 花愛	-	-	-	-	-	* 15	ブイマロ ワシカ フリエビモ エレ	34	0	16	2	3					
16	兼田 紬奈	-	-	-	-	-	* 16	橋本 芽依	13	1	4	2	3					
17	小俣 亜矢	-	-	-	-	-	* 17	桃井 優	8	1	2	1	0					
18	西尾 咲希	-	-	-	-	-	18	ユナフ ボランレ アイシャット	12	0	6	0	2					
コーチ	安藤 香織					0	コーチ	山本 綱義					0					
Aコーチ	長渡 由子						Aコーチ	中川 瀬名										
合計		66	3	24	9	21	合計		103	4	38	15	11					
主審: 柳生 志乃																		
副審: 小出 聡子																		
副審: 加藤 加織																		



CTO	1・2P	3・4P	OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	12:16	25:58				
TeamB	9:59					

〔戦評〕
女子決勝は第1シード大阪薫英女学院（大阪1位）と第2シード京都精華（京都1位）の対戦となった。薫英女学院#4#5#6#7#8、京都精華#4#5#15#16#17のスタートメンバーで試合開始。

第1Q、精華#15のリバウンドシュートで先制。薫英は#5のミドルシュートで得点するも、精華は高さを活かした攻守で点差を徐々に広げる。対する薫英は#5#11のドライブで反撃にでる。その後も精華は#15のゴール下を中心に攻撃の手を緩めない。18-29で精華がリードして終了。

第2Q、薫英は#11のリバウンドシュートと1対1で得点を重ねるも精華の高さを使った攻撃になかなか点差が縮まらず、タイムアウトを取る。薫英#4#7のポストプレーで点差を縮めるが、3Pとミドルシュートがなかなか決まらず点差が広がる。残り3分、薫英#5の3Pが決まり徐々に薫英の流れになり、ディフェンスではゾーンプレスが効果的に決まる。しかし、精華#14が連続3Pを決め、44-51で精華がリードして前半終了。

第3Q、精華は攻守において高さを活かしたプレーを続け、#4を中心に攻撃を仕掛けて点差を広げていく。残り4分、薫英46-68精華で薫英がタイムアウト。精華#4#15が攻撃の手を緩めない。薫英は精華#15を上手く引き付けノーマークを作ってシュートを打つもなかなか決まらず、50-76で精華リード。

第4Q、精華はリバウンドからの連続速攻と#4の緩急を使ったドライブでさらに点差を広げる。精華は30点差をつけたところでオールメンバーチェンジ。薫英は激しいディフェンスから反撃を試みるも、疲労の色が見えファウルがかさむ。薫英の諦めないひたむきな姿は賞賛に値する。薫英68-103精華で精華が勝利した。

昨年の冬の王者、京都精華の貫禄のある勝利であった。

戦評: 前川 慎輔 記録: 光泉カトリック高校